

KSKP

兵家連

(平成6年1月)

No. 15

編集人

兵庫県精神障害者家族連合会

南野三郎

〒650 神戸市中央区橋通4丁目1-28

辻ビル2F

TEL・FAX 078-360-2618



新年巻頭言

兵家連会長 南野三郎

新年お目出度うございます。

今年は兵家連が誕生して25年を迎えました。

月日の経つのが如何に早いものか、80歳を迎えた私もつくづく感じ入っております。

ところで今年の大行事は何といっても全家連全国大会、2、3年来「今度は兵庫県だ」と思っていたのがまさに正夢となりました。

昨夏来、兵家連の中に実行委員会を結成、兵庫県、神戸市、保健所、作業所の方々にも加わって頂き着々と準備を進めております。

大会は平成6年11月24、25の両日、場所は神戸市ポートアイランドの国際会議場、ワールド記念ホール、ポートピアホテル等で行う予定です。

何と申しましても兵家連にとって初めての大会です、みなさまのご協力を切にお願いする次第です。

この稿の締切間際に、私達にとって一大ニュースが入りました。

前国会で解散によって流れた「障害者基本法」が11月26日の参議院本会議で全会一致で可決したことです。

これによって神戸市へは、県と同じように国からの委任事務が適用されるだろうと思います。何はともあれ、この法律が私達にとってより身近なものとなることは間違いないことと信じています。

また12月9日を「障害者の日」とすることを定めているのも大いなる前進と認めたいと思います。

昨年末にお願いしました兵家連の賛助金も皆様のご協力によって資金の目途もついて来たようですが、社団法人となるには今一步、事業面でも、資金面でも無理のように云われておりますので更なるご援助をお願いしなければなりません。会長の力不足を痛感しておりますが、会員の皆様の暖かい力でこの難局を切り抜けて行く覚悟を新たにしております。

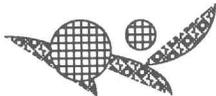
平成6年を皆さんと一緒に頑張りましょう。

第26回全国精神障害者家族大会

ひまわり会会長 岡田 早美

10月5、6日名古屋全国大会に兵庫県下約60名参加した。来年は兵庫県で開催の為、見学も兼ねバスで4時間程で目的地に着いた。最初に感じた事は「多くの仲間がいる」「頑張れる」と言う事だ。今回の大会テーマは、「皆が社会参加できる福祉を考えよう」、障害者の今おかれている現状を充分把握し、よりよい福祉を目指す事である。

参加者は高齢の方が多く、この子の為にあの子の為に熱き想いで希望を持って来ておられる。記念講演、笠原先生のお話から両親は子等の心の張りの為にも長生きし、医療は日に日に格段の進歩を遂げている。又障害者は社会性に乏しい所があるので、福祉とドッキングして社会性を身につける様暖かい支援が必要と、わかりやすくお話下さりポツと心に灯がともった。その後、会場の壇上で第27回全国大会は「山と海とロマンの街神戸で会いましょう」と神戸で再会出来る事を約束し、夕暮れる名古屋を後にした。



兵家連副会長 山本 春義

公開座談会は、「精神障害者施策の現状と今後の展望」——自治体施策の向上に我々はどうかわるか——が、テーマでした。

回復者は、施設の運営委員会には、ユーザー側の参加する所が少ない。これでは利用する側の意見が入らないし、話しあい、融和することができ難いのではないかと家族からは安心して医者にかかれるように、(地域において)信頼でき、相談のできるお医者さんがほしい。そのための運動が必要ではないか。問題点では、退院しても落ち付く所がない。所得では、所得保障を含めた年金対策がある。ほかに就労の問題もある。行政から(前某府衛生部長)は、昭和63年法改正で同意入院から任意入院になり、社会福祉施策の字句も加わった。今年の改正では住宅保障へも近づいたと思うが、まだ緒についたところと言いたい。声を上げなければ、法外事業は進まない。

法はぼつぼつできてきたが、家族がそれを知ることが必要であるとの司会者の発言に顔かされた。



但馬・丹波地区家族会研修会

ざくろ家族会会長 上坂 玉恵

9月11日豊岡市福祉会館で研修会が開催された。講演「共に生きるむずかしさ」と題して、西宮保健所長、北岡修先生が生活の中から体験された事を話された。

家族と本人の関係、本人と医師の関係の難しさを知らされた。良くなる時に患者が自殺することがある。家族にとってどう接したらよいのか、何を望んでいるのか分かりません。先生は、ほどほどの生活、ほどほどの接し方をする様にと話されたが、このほどほどが一番難しい。

午後からグループ討議「日頃の体験の中での成功談、失敗談」でいろいろな悩みが出た。3人も障害者をかかえていて、社会復帰ができない。他人に知られたくない。親の元気な内に何とか、偏見、暴力、家族の高齢化、と問題が山積の中で障害者の方から、「よく眠ること、おいしくたべること、気長にやることが生活です」と発言があった。この言葉こそ家族が大切に学ば糸口だと思う。最後に「偏見を無くするのは接する事でなくなる。親なき後の心配は親が考えてやる。今は宣伝の時代」と豊岡病院の高石先生に助言して頂いた。

悩める家族が・解決の道を求めて

神家連役員 前川 博

県・市の委託事業として、8月7日神戸市生活学習センターにおいて、「精神保健に関するなんでも相談会」が開催されました。相談会は年間行事の一つとして兵家連が共催し、相談会の開催も3年目です。医療・生活・年金・家族会の部会で、相談にはそれぞれの分野における専門の先生方に家族が直面する問題について熱心に應對して頂きました。

尚、相談会は平成5年度として3月5日に開催する予定になっております。

兵家連では、心の相談室を設け家族の相談を受けておりますが、家族会本来の目的であるお互いに助け合い支え合うことの大切さを、この相談会によって痛切に感じた次第です。

阪神・淡路地区

家族会指導者研修会

と き 平成6年2月5日(土) 10:00~15:00

ところ 宝塚市総合福祉センター3F

テーマ 精神障害者の生きやすい社会の実現
をめざして

「回復者の声に耳を」

と き 平成6年1月22日(土)

13:30~16:00

ところ たちばな会館

なんでも相談会

と き 平成6年3月5日

ところ 神戸市勤労会館の予定

家族等指導者一泊研修会

作業所部会代表世話人 齊賀 嘉寿美

冷夏と云われ乍らも、まだ汗ばむ8月31日から9月1日にかけての研修会が、明石海峡大橋の建設が急ピッチで進められている神戸垂水区の舞子ビラで行われました。

今年のテーマは「作業所の課題と今後のあり方」で70名の参加があり全家連池末美穂子先生の講演では全家連に寄せられる家族の悩み、各地の作業所活動、作業所の役割、家族会活動の3原則、相互支援、運動、学習、等々全家連の立場から望むこととしてのきめこまかいご指導を受けました。

関西青少年サナトリウム、PSW青木聖久氏を招いて、「社会保険労働保険の基礎講座」の講義を受け、参加者の熱心なメモを取る姿が目につきました。

分科会より

A 家族会活動の活性化と強化について

コスモス共同作業所 指導員 大西 月美

患者の家族が具合が悪い時など、代理で病院に見舞いに行き、様子を知らせてあげる。

各ブロックごとに精神相談会を行えば、啓蒙活動になるのではないかな。

親も本人も社会に心を開いて理解してもらう必要がある。そうすれば家族会にも参加しやすいのではないかな。

家族会活動にも助成金の利用を許可して欲しい。

B 高齢化していくメンバーへの対応と就労の問題

尼崎中央製作所 指導員 重田 進

通りハ制度があるものの、数が少ない上職親の精神障害についての理解が不十分で、適切な指導も望まれず、安心してメンバーを託せられず、逆に病状が悪化すると困るという課題が出された。作業所の絶対数が少なく、そのメンバーに合った作業所が選べない現状で、今後タイプ別の作業所（就労援助型やいこいの家型）への分化の必要、また数少ない作業所由に、その中でスタッフの増員を計り、就労援助を含めたそのメンバーに適した多様な援助をしていくことが必要。

C 地域のネットワーク作り

尼崎ともしび共同作業所 指導員 安田 哲郎

家族会、作業所とも地域との接点を持たない。

自分自身に偏見が強く、変な思い込みから外に出ていけない。

近くにいる理解者、支援者を有効に取り込んで組織することが出来てない。

保健所をもっと上手に利用しなければ。

知的障害の団体とのつきあいが殆ど無いというのが不思議（県地域保健課担当者）

役所が組織するのは不自然、家族会が呼びかけ役所を動かして行くのがいい。

マインドin神戸'93

垂西むつみ会共同作業所 所長 岡野 和彦

10月24日(日)朝8時垂西作業所へ到着。家族会の応援者数人と2台の車に、バザー商品を積み込み会場の中央区メリケンパークに。浜風はやや強いが好天に恵まれ、会場には早やテントが30数ヶ所張られ次々と車が到着、手際良く売場が作られる。



これは医療、福祉、ボランティアグループを初め共同作業所、家族会のバザーや模擬店の準備である。共同作業所で社会復帰を目指してメンバー達が作った手芸作品や手作りのお菓子なども販売される。開場は11時からと云うのに、10時過ぎにはもう次々と人が集まり始める。

会場入口付近では餅つき大会が行われ、つきたての餅を求めて人の長い列。会場西端にはステージが設けられ日頃作業所やディケアで鍛えられた自慢の喉でメンバー達がカラオケ大会、オーストラリアの夫婦も登場。ステージ下では歌声に合わせてダンスまで飛び出す賑わい。



光風病院のうどんなどは1時過ぎには売切れて店じまい、午後2時頃雲行きがあやしくなったが、バザー模擬店等は2時迄タイミング良く、2時から会場も屋内でのパネルディスカッション。テーマは「自分達で語ろう、生きる事を」会場いっぱいの観衆の中で、精神障害の経験者5人がパネリストとなり、自分達の体験を堂々と話し社会復帰にける思いを強く訴えた。

おめでとうございます

- | | | |
|--------------|----------|----------|
| 全家連理事長表彰 | ひまわり会会長 | 岡田 早美 氏 |
| 日本精神保健連盟会長表彰 | 湊川病院P SW | 多田 トモ子 氏 |
| | 兵家連副会長 | 久保 すゑ子 氏 |

近畿ブロック家族大会

兵家連副会長 西浦三郎

平成5年11月7～9日の3日間、全家連・京家連主催の表記大会（精神保健推進活動研修会）が、近畿6府県からの家族会員ならびに関係者を集めて、京都の「コミュニティ嵯峨野」に於いて開催されました。

近畿でのこの大会は、毎年開催県を移動巡回させながら実施されており、近畿各府県連の連携強化とレベルアップに大いに効果を発揮しております。

初日は全家連荒井元傳氏の「共に歩こう明日に向かって——家族の力が未来を拓く——」2日目は京都府立洛南病院長小池清廉先生の「地域活動の活性化と精神保健」の記念講演があり、今回も、開催県の京都府連の多大のご尽力により、研修と交流の成果を充分挙げながら終了いたしました。

姫路・西播磨地区家族会指導者研修会

宍粟すぎの木家族会 上垣 迪雄

11月13日、宍粟郡安富町「農村センターやすとみ」での研修会は初冬の雨の中、沢山の方が参加して下さいました。

「共に生きる家族術」と題して、県立光風病院ケースワーカー藤田修美先生の講演がありました。その中で、精神病は人口比0.7～0.8%の一定の発病率がある。たまたま病気になったということで、一番つらい思いをしているのは患者であって、そのつらさを共有してやらねばならない。また、患者に対して家族だけが対応していく時代ではない。みんなでかかわって障害者の生きやすい社会を作らねばと心に食い入る話でした。

句帖より（秋から冬にかけて）

久山 琴二

私のなかに点された小さな迎え火は、人びとのなかへも次つぎと移されてゆき、弱さや寂しさや孤独感を、優しさのなかに包みこんでゆく希望の光となつて輝きはじめることだろう。いつまで生かされるのか、医師にさえわからぬことだけれど、生かされている限り私は小さな光を点し続けてゆきたい。

（重兼芳子著たとえ病むとも、98頁、岩波書店 1993年）

書き難き返書を終えて夜長かな

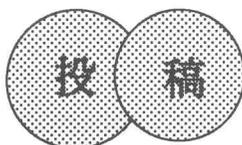
老いてなお木の実拾うくせつづき

秋の夜や老母病む娘の薬乞う

日記果つはじめのページ繰りて見つ

行く年をふりかえりおり石露の咲き

子を胸にあつく抱きおり息白し



Yちゃん

子供の頃、私は今でいう自閉症か緘黙症でした。家族となら普通に喋れるのに、一歩外にでると、お喋り出来なかったのです。たまに喋ったら「わあ、Yちゃんがしゃべっている。珍しい」など言うものだから、余計喋れなくて、いつでも首を縦に振るか、横に振ってすませていました。

高校卒業後、会社に勤め、先輩や同僚と会話がうまく出来ず、その上、上司のいじめに合い、入社して1年で病気になり、会社を辞めて湊川に入院しました。主治医の先生は毎日のように様子を見にきてくれるのですが、私は全然喋らない。それでK先生は何とか私の気持ちを知らうと、家に手紙かはがきを書きなさいと言いました。私は書くのも大の苦手で、それに両親や姉がよく面会に来てくれたので、書く必要もなく、書きませんでした。

そんなある日、「外泊して下さい」と言ったら、先生は「初めてYちゃんが喋ってくれた。それもYちゃんの方から喋ってくれた」と感激して、私の母に報告しました。

そんな私が退院して、通院することになったのですが、精神科の診察といえば喋ることです。私にはこれが苦痛以外の何物でもなかったのです。毎週診察に行っても話が續かずただ先生と顔を見合わせては、下を向いているだけでした。先生も困った顔で「何でもいいから思った事を書いてきて」と言いました。

私は家庭内の事を聞かれるのが嫌で、また自分の悩みを言っても、どうせ解決するようなアドバイスしてはくれないと、勝手に決めて、とにかく心の中を覗かれるのが嫌でも喋りませんでした。何度か入院を繰り返し、何とかこの私の無口なのを、治してあげようと思ったのでしょうか。先生は聞く事に徹して、とにかく聞き上手になってくれました。2週間分薬が出たのですが、薬があっても話に来なさいといわれ、私は毎週病院に行き、悩みを聞いてもらいました。先生との出会いから8年経った頃、K先生は別の病院に行かれましたが、その時私は、初めての先生でも誰とでも話が出来るようになっていました。

最近学校時代の友達に30年振りに会い、社交的になったと言われました。

第27回全国精神障害者家族大会 実行委員会から

大会テーマ「ふれあいの心をみんなのまちから」

大会を素晴らしいものにするために、皆様からのご意見や情報をお寄せ下さい。

実行委員

| | | | | |
|-------|-------|-------|-------|-------|
| 永井 光明 | 森 哲夫 | 大岡 朝子 | 片山 久子 | 山内 信治 |
| 榎本 毅 | 北村 雅由 | 川田よし子 | 平尾 一幸 | 青木 彦一 |
| 池山美代子 | 南野 三郎 | 西浦 三郎 | 山本 春義 | 久保すゑ子 |
| 斉賀嘉寿美 | 前川 博 | 佐藤 勝美 | 岡野 和彦 | 藤田 修美 |
| 多田トモ子 | | | | |



賀 正

1994年



| | | | |
|----------------|-----------|----------|-----------|
| 北家族会 | 長田家族会 | 兵庫家族会 | クサケクソ社家族会 |
| クサケクソ社家族会 | 木の芽家族会 | 垂西家族会 | ひまわり家族会 |
| 尼崎東家族会 | 尼崎北家族会 | 尼崎西家族会 | 尼崎中央家族会 |
| さぎ草家族会 | のじぎく家族会 | みちくさの会 | 木の根会家族会 |
| ざくろ家族会 | すみれ家族会 | あじさいの会 | むぎのめ家族会 |
| にじの会 | 宝塚家族会 | くぬぎ家族会 | いずみ会家族会 |
| ともしび会ファミリーサークル | | 三原家族会 | 白ゆり会家族会 |
| 揖水家族会 | 六粟すぎの木家族会 | 赤相みのり家族会 | すぎなの会 |
| 湊川病院家族会 | 高岡病院家族会 | 光風病院家族会 | 加茂病院家族会 |
| 赤穂川織家族会 | 揖保川織 家族会 | 有馬病院家族会 | 豊岡めばえの会 |

本年もよろしくお願ひ申し上げます。

兵庫県精神障害者家族連合会



迎 1994年 春



北むつみ会 長田むつみ会 兵庫むつみ会 中央区むつみ会
 共同作業所 クサケクノ社 六甲倶楽部 御影倶楽部 垂西むつみ会共同作業所
 ひまわり会 なでしこの里共同作業所 さぎ草会共同作業所 京口共同作業所
 ともしび共同作業所 中央製作所 さつき作業所 あすなろ製作所
 木の根会作業所 ざくろ作業所 すみれ会共同作業所 むぎのめ作業所
 宝塚ワークセンター くぬぎ会共同作業所 いずみ会共同作業所 コスモス共同作業所
 揖水会共同作業所 白ゆり会作業所 赤相みの会作業所 すぎなの会作業所

新春特別ニュース速報

第27回 [全国精神障害者家族大会]

成功させよう！ 兵家連の心意気

とき 平成6年11月24日(木) 分科会
 平成6年11月25日(金) 講演 公開座談会 式典
 会場 神戸ワールド記念ホール・神戸国際会議場等

地域の皆様、医療・福祉関係の皆様、ご理解とご協力をお願いいたします

精神障害者の社会復帰施設等一覧

(平成5年2月1日現在)

| | | | | | | | |
|---------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------------|--|--|------------------|--|
| 精神 病 院 | 回 復 途 上 者 | | 医療施設 病院42 診療所105 | ナイト・ケア | | 社 会 復 帰 | |
| | | 生活指導を必要とするケース | 精神科デイ・ケア施設 (5) | 公立豊岡 定員40人、高岡 定員50人、淡川 定員50人、宗神経科クリニック 定員30人、新浜路 定員30人 | | | |
| | | 生活指導をより必要とするケース | 精神保健センター(1) | デイ・ケア 定員50人 | | | |
| | | 生活指導を必要とするケース | 保健所 | デイ・ケア | 社会復帰相談指導 42HC(政令市) | | |
| | | 独立して日常生活ができず、生活の場のない者 | 精神障害者 | 支援 | 入所 (一定期間の宿泊提供) | | |
| | | 在宅における処遇が一時的に困難になった者 | 精神障害者 | ショートステイ施設 | 短期入所(原則7日間) 援護寮に専用居室併設 | | |
| | | 生活の場のない者 | 精神障害者 | 福祉ホム(3) | 入所 (一定期間の宿泊提供) 揖保川病院、宝塚三田病院、仁恵病院 定員 各10名 | | |
| | | 生活の場のない者 | 精神障害者 | グループホーム | 入所 (共同生活の場の提供) 明石土山病院 | | |
| | | 生活の場がなく、作業訓練を必要とする者 | 精神障害者 | 入所授産施設 | 入所 (作業活動・宿泊の場の提供) | | |
| | | 作業訓練を必要とする者 | 精神障害者 | 通所授産施設(1) | 通所 (作業活動の場の提供) 伊丹市 定員20名 | | |
| 作業訓練を必要とする者 | 精神障害者 | 小規模作業所 (26) | 通所 (作業活動の場の提供) 通所生 459名(定員) | | | | |
| 就労に向けた社会適応訓練を必要とする者 | | 通院患者リハビリテーション | 訓練生 62人 事業所 61か所 | | | | |

* 平成5年度より、国において、精神障害者福祉工場及び精神障害者通所機能付援護寮を社会復帰施設のメニューとした。

[家族会組織一覧表]

全国精神障害者家族会連合会

兵庫県精神障害者家族連合会

[平成6年1月10日現在]

病院家族会

[] 内=共同作業所

地域家族会

[] 内=共同作業所

- みなとがわ家族会（湊川病院内）＜神戸市＞
- ひらどの会（県立光風病院内）＜神戸市＞
- 高岡病院家族会（高岡病院内）＜姫路市＞
- 加茂病院家族会（加茂病院内）＜加東郡＞
- 千種会（赤穂仁泉病院内）＜赤穂市＞
- いずみ家族会（有馬病院内）＜西宮市＞
- 揖水会（揖保川病院内）＜揖保郡＞
- 豊岡めばえの会（豊岡病院内）＜豊岡市＞

- いずみ会家族会＜西宮市＞ → [いずみ会共同作業所]
- 揖水家族会＜揖保郡＞ → [揖水会共同作業所]
- 宍粟すぎの木家族会＜宍粟郡＞
- 白ゆり会家族会＜西脇市＞ → [白ゆり会作業所]
- すぎなの会＜加古川市＞ → [すぎな作業所]
- あじさいの会＜伊丹市＞
- 赤相みのり家族会＜赤穂市、相生市＞ → [赤相みのり作業所]

- 神戸市精神障害者家族連合会＜神戸市＞
 - 北家族会＜北区＞ → [北むつみ会]
 - 中央区家族会＜中央区＞ → [中央区むつみ会]
 - 長田家族会＜長田区＞ → [長田むつみ会]
 - 兵庫むつみ会家族会＜兵庫区＞ → [兵庫むつみ会]
 - クサカテクノ社家族会＜兵庫区＞ → [共同作業所クサカテクノ社]
 - 木の芽家族会＜東灘区、灘区＞ → [御影倶楽部] [六甲倶楽部]
 - ひまわり家族会＜須磨区＞ → [ひまわり会]
 - 垂西家族会＜垂水区、西区＞ → [垂西むつみ会共同作業所] [なでしこの里共同作業所]
- 尼崎市精神障害者家族連合会＜尼崎市＞
 - 尼崎東家族会 → [ともしび共同作業所]
 - 尼崎北家族会 → [あすなろ作業所]
 - 尼崎中央家族会 → [中央製作所]
 - 尼崎西家族会 → [さっき作業所]
- むぎのめ家族会＜川西市＞ → [むぎのめ作業所]
- くぬぎ家族会＜西宮市＞ → [くぬぎ共同作業所]
- 宝塚家族会＜宝塚市＞ → [宝塚ワークセンター]
- ともしび会ファミリーサークル＜明石市＞ → [コスモス共同作業所]
- さぎ草家族会＜姫路市＞ → [さぎ草会共同作業所]
- のじぎく家族会＜姫路市＞ → [京口共同作業所]
- にじの会＜三田市＞
- みちくさの会＜多紀郡篠山町＞
- 木の根会家族会＜氷上郡＞ → [木の根会作業所]
- すみれ家族会＜出石郡＞ → [すみれ共同作業所]
- 三原家族会＜淡路＞
- ざくろ家族会＜豊岡市＞ → [ざくろ作業所]